

令和3年5月14日開催

本会議は、Web会議システムにより開催した。

<発言者>

<項目・内容>

委員長

1 公安委員長挨拶

「コロナ禍で緊急事態宣言が出された県も多くなってきた中、5月12日現在で人口10万人当たりの感染者数が最も少ないのが島根県で4.30人、次いで鳥取県の4.68人で、島根県は非常に抑えられている。コロナ感染症のまん延に直面する日々、私がこの数字以上に思うのは『トップの判断は難しい』ということである。

思い出したのが、孫子の兵法にある『拙速は巧遅に勝る』ということわざである。多くの本が出ているし、トヨタの企業思想としても用いられている有名な言葉である。

コロナ禍の中、トップが拙速と巧遅のどちらを選ぶかは非常に難しいことと思う。国民は、『トップが巧遅を選んでおり、いつかはどうにかなるだろうと考えている』と思っているのではないか。

私は、どちらかと言えば拙速の方を選ぶ。このことわざを覚えたのは40歳代でバスケットボールの全国大会への出場チームを率い、迷いがあったときである。孫子の兵法の本を買い、これだと思った。

孫子の兵法には、3万の兵を率いて出兵し負けそうになるが、トップが一度決めたことを簡単には曲げることができず、最終的には兵を失って負けた、それでいいのかという例が出ていた。

私はコーチとして決断したことを作戦として実行するが、どんどん点差がついていく。今言ったことを曲げたら選手に申し訳ないし自分のプライドも傷付く。しかし最初に決めたことを守り通し、結局負ける。それでいいのか、ということはこのことわざから知らされた。

そこから私は拙速を選んでいくようになった。早めに判断し、『ごめん、作戦を変える。』と勇気を持って言った。『勇気ある撤退』だ。自分が言ったことをパッと撤回して作戦を変える、そういう自分になれたのは全てこのことわざのお陰だ。

いま私は、コロナ感染者数の多い少ないよりも、コロナ禍でトップがどう判断しようとしておられるのかということに思いを巡らせることの方が多くなった。皆さんもそれぞれの部でトップを任せ、判断に困られることもあると思う。先日は植樹祭に向けた警衛警備の体制を縮小し、速やかに配置換えをされる旨の報告を受けた。私は、判断が非常に早いなと感心した。

拙速が常にいいわけではないが、トップの判断がますます重要に

なってくるということ、いま私たちはコロナ禍の中で勉強させられているのかなと感じている。」旨の発言があった。

2 報告

(1) 令和3年度嘱託警察犬審査会の開催

警察本部

「令和3年4月20日、斐伊川堤防において令和3年度嘱託警察犬審査会を開催した。昨年度は各警察署から7頭の推薦があったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言を受け審査会を中止したため、2年ぶりの開催となった。審査科目は足跡追及のみで、9頭のシェパードが出場した。審査要領は、全長160歩、7屈折、8コース、遺留品3点、100点満点中70点以上が合格、制限時間は7分である。減点項目は、コース逸脱、鼻上げ・座り込み、遺留品未発見、排便・排尿、指導手による誘導である。審査結果は全頭合格であった。嘱託警察犬の現状は、一時期の大型犬ブームが去り、警察犬にふさわしい犬の絶対数が減っていることが大きな問題となっている。また、指導手の高齢化等により、嘱託警察犬の育成が困難化している。今審査会では、警察犬指導手の人脈を通じた募集活動、県警ホームページ、フェイスブックへの募集情報掲載、警察署における広報活動等により、新規出場犬3頭を獲得した。嘱託期間は令和3年6月1日から令和4年5月31日までで、警察犬指導手に対して、本部長名の嘱託書、メダルである嘱託警察犬章、指導手帽子、指導手ベスト及び警察犬用安全帯を交付して嘱託する予定である。今後の取組として、直轄警察犬と嘱託警察犬の連携を強化して合同訓練の実施や積極的な現場出動、また、嘱託警察犬制度の活性化を図るため活動実績に対する賞揚、審査会参加募集活動の強化を図っていく。」旨の報告があった。

委員

[意見]「隠岐の島町での行方不明事案や、江の川水域での災害等、警察犬の需要は高まっている。嘱託警察犬制度の普及や活躍に期待している。」

委員

[意見]「日頃からしっかり訓練して、有事に備えてほしい。」

委員

[意見]「嘱託警察犬が増えたのは良いことである。引き続き嘱託警察犬制度の活性化をお願いする。」

(2) しまね安全ドライブ・コンテスト2021の実施

警察本部

「しまね安全ドライブ・コンテスト2021の実施について、主催は、実行委員会委員長が島根県知事、副委員長が警察本部長、島根県交通安全協会会長、島根県安全運転管理者協会会長等である。実施期間は7月11日から12月31日までの174日間で日数は

『いはんじこなし』と語呂合わせしている。募集期間は5月20日から7月10日までで、過去最高だった昨年の7,815チームを超える参加チームを目指す。参加区分は、一般・事業所チームと高齢者チームで、高齢者チームは65歳以上が1人以上参加することが条件となっている。参加資格は、運転免許を保有し県内に居住、勤務又は通学していることと、地域、家庭、職場、友人、高齢者など3人で1チームを編成することである。参加費用は1チーム2,010円で運転記録証明書発行手数料となる。期間中、無事故無違反を達成したチームの中から抽選により賞品を贈呈する。賞品は、しまねっこ賞として9万円の商品券を合計5チームに贈呈する。新型コロナウイルスの情勢を踏まえて、昨年までの旅行券から変更した。みこぴーくん賞として1万円相当の島根県産品を60チーム、しままる賞として1,500円分のQ U Oカードを180チームに贈呈する。しままる賞は昨年は図書カードであったが、賞品利用範囲拡大のためQ U Oカードに変更した。」旨の報告があった。

委員
委員
委員

〔意見〕「年々参加チームが増えており、今年も期待している。」
〔意見〕「当社でも毎年参加しており、今年も参加させてもらう。参加するようになってから大きな事故が減ってきたように思う。」
〔意見〕「地元自治会も参加している。」

3 話題

警察本部

ベスト交番等及び地域警察官MVP表彰

「地域警察官の士気高揚と実績向上を図るため、犯罪等の実績検挙、各種執行務実績等を基に、表彰制度を運用している。平成17年表彰分から本制度を開始し、年実績評価から年度実績評価に変更するなど細かな変遷を経ている。本制度は、交番等、駐在所ブロック、パトロール系の3つの部門ごとに優秀グループを表彰している。交番等の部では、出雲市駅前交番、駐在所ブロックの部では松江警察署西部ブロック、パトロール系の部では益田警察署パトロール係をそれぞれ表彰した。4月26日に本部長室において賞状及びカップを授与した後、座談会を実施した。座談会では、コロナ禍で巡回連絡がやりにくい話や巡回連絡の趣旨をしっかりと説明するようにしている等の苦労話が聞かれた。地域警察官MVP表彰では、交番、署所在地、駐在所、パトロール系の4部門ごとに個人の年度実績を検証し、優秀者について本部長賞誉・生活安全部長賞を表彰している。令和2年度MVP等被表彰警察官は、各部門の最優秀者に本部長賞誉、各部門の最優秀者を除いた上位2人に生活安全部長賞

を授与した。交番の部のMVPは、上位3名が出雲市駅前交番であり、切磋琢磨し相乗効果がみられた。署所在地の部では、雲南警察署所在地、駐在所の部では浜田警察署周布駐在所、パトロール系の部では松江警察署パトロール系の地域警察官がそれぞれMVPを獲得した。部門毎の対象警察官は交番部が198人、警察署所在地の部が73人、駐在所の部が133人、パトロール系の部が62人である。その他、刑法犯及び特別法犯の検挙件数の1年間の累積を対象とした表彰制度があり、昨年度1人が本制度の本部長賞を獲得した。」旨の報告があった。

委員 [意見]「一度も表彰されていない警察署があれば何かしらの問題がある。大人になっても賞罰は大切だと言う研究者もいる。一度も賞揚されないと人は疲弊するものだ。」

委員 [意見]「社会人として表彰されれば仕事への励みになる。これからも賞揚を図ってモチベーションの維持向上につなげてほしい。」

委員 [意見]「多くの地域警察官の中で、受賞者は、とても苦勞されたのだと思う。これからも表彰制度を続けてもらいたい。」

5 総括

本部長 「交通部から、しまね安全ドライブ・コンテスト2021の実施について報告した。

参加費は郵便局への払込みとなっている。今の時代、大学生などはインターネットを用いた支払いをどんどん利用している。私はこの方法を取り入れることでコンテスト申込数の大幅な増加が期待できるのではないかと推測し、申込方法の拡大について確認してみた。申込先となる自動車安全運転センターからは、2、3年後には拡大見込みであるが、今年度は従来どおりの方法となるとの回答であった。

交通部門に限らず、職員のいろいろなネットワークを通じて参加者が増えるようにやってまいりたい。」旨の発言があった。